

「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」

第3回意見交換会実施報告

日時：2023年11月16日（木）13：00-14：00

オンライン（Zoom会議） ホスト：奈良女子大学

参加機関：50音順

【大学・高等専門学校】大阪女学院大学、京都光華女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸松蔭女子学院大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、武庫川女子大学（7機関）

【企業・団体】佐藤薬品工業株式会社、TOPPAN株式会社、帝人フロンティア株式会社、株式会社プロアシスト、奈良県中小企業団体中央会、（4企業・1団体）

計12機関、26名の参加があった。

1. 開会挨拶

星野 聡子 氏（奈良女子大学・学長補佐、男女共同参画推進機構長）

開会にあたり、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の共同実施機関および関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク参画機関に対して、日頃のご協力と連携に謝辞が述べられた。また、地域におけるダイバーシティを牽引し、社会に貢献するために今後のご協力を願い、本日の会が活発な忌憚のない意見交換の場となることに期待を述べられた。

2. 話題提供1

『ならっこネット』という選択—奈良女子大学における子育て支援のあゆみと展望

春本晃江氏（奈良女子大学・ダイバーシティ推進センター・特任教授）

奈良女子大学で実施されている子育て支援について紹介された。「ならっこネット」は奈良女子大学で独自に開発された、利用者に迅速にサポーターを配置するシステムで、サポーターの配置・支援をWebシステムが管理している。Webサーバーの利用により、サポーターの依頼・配置は迅速であり、Webサーバーが支援状況を常に管理し、不測の事態を把握し対処できるので安全性も高い。また、本事業の趣旨をよく理解し、所定の講習を受講したサポーターが支援に当たるので信頼性も高い。これまで、ユニークな子育て支援としてマスコミでも報道され、全国から毎年視察がある。ならっこネットは2008年度から運用を開始し、今年で17年目、年間200件ほどの利用がある。

奈良女子大学の子育て支援は、2006年度に採択された「女性研究者支援モデル育成事業」に始まる。学内のニーズを把握するためにアンケート調査を実施し、女性活躍支援のためには子育て支援の実施は不可欠であることが判明した。奈良女子大学は小規模な大学であるため利用者が限られ、保育所の設置は現実的でない。それよりも、女性研究者の働き方をカバーできるきめ細かい支援が可能なシステム作りを目指し、訪問型子育て支援「ならっこネット」の構築に至った。さらに2019年度に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イ

ニシアティブ(牽引型)」で、附属病院を持たない機関における「訪問型」病児保育システムの構築に取り組むことになった。これまで構築・発展させてきた「ならっこネット」の延長線上でのシステムの構築を目指し、ニーズ調査を実施し、小児科医、看護師、保育士の方々とワーキンググループを結成して、さまざまな課題の検討、リスク管理手続きの整備を行った。2021年4月には病後児保育システムの試験運用を開始、2023年5月より病後児保育システムの本格運用、病児保育システムの試験運用を開始した。今後これらの保育システムをより充実したものにすること、そしてこのシステムをより広く他機関にも普及できればと考えているとのことであった。

3. 話題提供2

「武庫川女子大学の新規子育て支援システムの立ち上げについて」

福尾 恵介 氏 (武庫川女子大学・食物栄養科学部食物栄養学科栄養科学研究所・教授)

イニシアティブ事業の共同実施機関として、奈良女子大学で実施している「ならっこネット」の趣旨に賛同し、武庫川女子大学でまさに立ち上げようとしている子育て支援システムについて紹介された。

2019年に武庫川女子大学の教職員にニーズ調査を行ったところ、回答者の77%が病児病後児保育を利用したいことがわかった。また、武庫川女子大学の卒業生へのアンケート調査により、卒業生には保育士や幼稚園・小学校の教員などの有資格者が多く、大学近辺に居住されており、サポーターとして登録したい方も多ことがわかった。病後児保育ワーキングを立ち上げ、男女共同参画推進室とともにシステムの立ち上げを進めている。関連学科として教育学科、看護学科と連携をとり、附属の保育園にアドバイスをいただきながら進めており、卒業生のサポーター養成の必要性から同窓会の事務局「鳴松会」と、さらに医師会とも連携をしていくことを考えている。まずはイベント託児から開始することとし、利用者の子ども1名にサポーター1名を配置し、リーダーサポーターとして附属保育園の保育士、さらに1~2名の補助サポーターを配置して、バックアップ体制が取れる形で実施することとした。2023年9月16日にサポーター登録説明会を開催し、本学卒業生の21名が登録した。サポーター講習は奈良女子大学で作成した講習をオンデマンドで実施し、それとは別に日本赤十字社の子どもに対する救急講習を対面で実施し、13名がサポーターとして認定された。10月25日に利用者説明会を開催し、12名の参加があった。第1回の託児は武庫川女子大学の入試がある11月23日(木)の予定で、利用者1名から申込みがあり、2名の子どもを預かる予定である。同時に体験見学会を実施する。次年度は通常託児と病後児イベント託児に進む予定で、西宮市への届出、病後児の託児に向けて小児科医と連携や病後児のサポーター要請を行っていきたいと考えているとのことであった。

4. 質疑応答および意見交換

2つの話題提供の後、質疑応答および意見交換を行った。

今回、意見交換については以下のとおりである。発言者（所属・氏名 敬称略）

Q 1 武庫川女子大学では附属の保育園をお持ちであるが、その保育所ではカバーできないニーズがあったということか？（奈良女子大学 春本晃江）

A 1 現在の保育園は武庫川女子大学の教職員のために開いたのでなく、本学の教職員も一般と同様に西宮市を通じて申し込むことになっており、実は本学の教職員で預けておられる方は非常に少ないのが現状である。（武庫川女子大学 福尾恵介）

Q 2 資格をお持ちの方がたくさんおられて羨ましいことですが、関連した学部、学科があって、卒業生の方のプールがあるということか？（奈良女子大学 春本晃江）

A 2 卒業生の中に保育士とか幼稚園・小学校の勤務経験のある方がかなりおられ、心強く思っている。有資格者がリーダー的になっていただき、資格のない方を指導する体制ができればよいと考えている。（武庫川女子大学 福尾恵介）

Q 3 奈良女子大学、武庫川女子大学ともに運用に関してどれくらいのマンパワーをかけているか？（神戸松蔭女子学院大学 岩崎）

A 3 ● 奈良女子大学の運営のマンパワーは、子育て支援だけにかかっているわけではないが、ダイバーシティ推進センターで3名のコーディネーターと1名の業務補佐員の方にお願いしている。すべて非常勤で時間数はそれほど多くない。（奈良女子大学 春本晃江）

● 専任としては、事務職員1名、あとは兼任で男女共同参画推進室だったり、女性活躍総合研究所の方であったり、いろんな方が関わってくださっているが、それぞれ兼任でいろいろな仕事を合間にやっていただいている。（武庫川女子大学 福尾恵介）

Q 4 有償ボランティアの方にはどれぐらいの費用をお支払いしているのか？1時間あたりの支援活動費用はそのままお渡しする形ですか？（神戸松蔭女子学院大学 岩崎）

A 4 ● 金銭の授受に関しては、大学は全然タッチしていない。利用者の方とサポートさんの間でやり取りをして、一時間あたり700円とか800円ですが、そのお金と交通費の全額が利用者さんからサポーターさんに支払われている。大学は何も金銭には関係しない。（奈良女子大学 春本晃江）

●費用に関しましては、武庫川女子大学は最初、補助サポーターを準備するということをし上げたが、その費用は大学が負担し、実際に子供さんの託児をされるサポーターに対しては、奈良女子大学と同じで大学は関与せず、利用者の方とサポーターの方の間でやり取りをすることになっている。交通費に関してはサポーターに支給しないとしている。サポーターの中には遠くから来られている方もおられて申し訳ないが、ボランティアということをしあげている。託児の時間の時給のみ、やり取り

していただいている。(武庫川女子大学 福尾恵介)

5. 閉会

今回、奈良女子大学と武庫川女子大学の子育て支援の取組についてお聞きした。短い時間ではあったが、活発な質疑応答があり、参加者と共に考えるよい機会になった。司会者からまとめがあり、ネットワークへの新しい参画機関の紹介があった。参画機関は35機関になったことが報告された。

新しいネットワーク参画機関

一般社団法人ウィアソシエーション

集合写真を撮影し、閉会した。

第4回意見交換会：2024年5月16日（木）